

第42回「資本論を読む会」

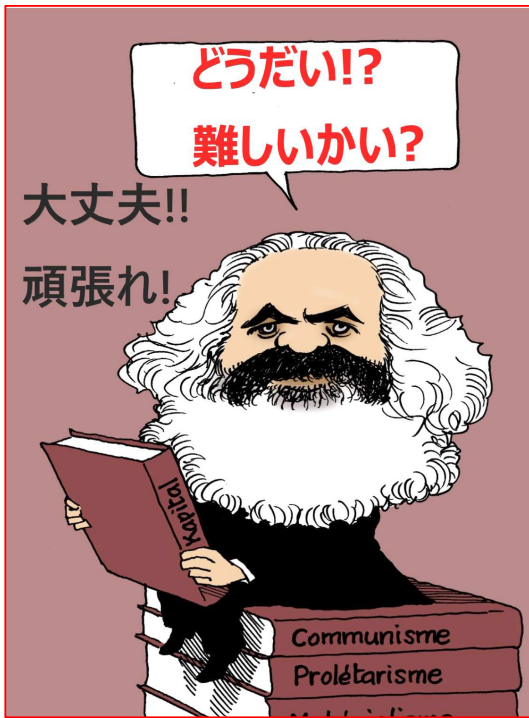
日時：8月31日（水）

午後6時30分 Zoomで開催

次回は「第13章第7節 機械経営の発達にともなう労働者の反発と牽引 綿業恐慌」(P447~)

第26回参議院選挙も終わりました。ともあれ、ご苦勞様でした。7.28に開かれた「資本論を読む会」の参加者は恒例メンバー9名でやりました。レポーターも一回りしてTakちゃんでしたが、いつもの通り、一人で先に行ってるのでレポート説明が「マルクスより難しい」？

今回は「第6節 機械装置によって駆逐された労働者にかんする補償説」。機械が導入されることによって解雇(駆逐)される労働者が「再雇用される」ことに関する論争です。ご承知のように資本家は楽観論やごまかしで弁明しようとするが、マルクスはその嘘を論駁します。



今回の論点は「僕婢（ぼくひ）階級」。機械によって異常に高められた生産力が労働者階級の中に不生産的な僕婢階級を大量に再生産する… (p445)。この階級は「現代ではサービス業・第三次産業の中に解消している」とする説明を巡って「ブル・シット・ジョブ（クソどうでもいい仕事）って?」「どんな人たちか?」と議論になりました。次回は標題の第7節に入りますが、さてどういふ議論になりますか。その後、恒例の懇親会では、移民問題（林業のベトナム技術研修員などから）と参院選の結果についての議論が中心だったかな？ 次回からも初参加の方歓迎します！

☆「資本論を読む会」の最初からの資料は下記ホームページでご覧になれます。

◎ <http://socialistho.cafe.coocan.jp/>「資本論を読む会」オープン・コーナーにあります。

レポーターから--Takちゃん

第13章 第6節 機械装置によって駆逐された労働者にかんする補償説

ブルジョア学者たちは、労働者を駆逐(解雇)する機械装置は、常に・必然的に、解雇労働者を再雇用する資本を遊離させる、と主張する。解雇労働者が買うはずの「生活手段としての資本」が遊離する(売れない)ことは陳腐な事実としても、それが、新規資本が解雇労働者を再雇用する際の「生活手段資本」となる、と言うのは誤り。「生活手段」は労働者が買う「単純商品流通の商品」であり、「再雇用の資本」ではない。解雇で「需要が減少」し商品価格が下落、利潤低下で資本は他部門に逃避。つまり、この生活手段生産部門の労働者も解雇されるのである。

	労働時間	労働強度	自然と人間	生産者と富
①機械装置そのもの	短縮	軽減	人間の勝利	富の増加
②資本主義的使用	延長	強化	人間の圧服	貧民化

→すべて「資本が享受＝資本の所有」

つまり、敵対関係は「②資本主義的使用」から起こるのに、それを伏せて「①機械装置そのもの」の考察だけを引き合いに出し、「矛盾は現実的にも理論的にも存在しない」とする詭弁・楽観論が流布されているのである。

機械生産物は駆逐した手工生産物より「廉価」なので、次のことは「絶対的法則」である。機械が生産する商品総量が手工業生産の商品総量と同じならば、①総可変資本・「充用される労働総額」は減少し、②総不変資本生産の労働増加は、機械使用による労働減少より小さい。(「再雇用補償はない」)

だが、実際は、以前より「少数の労働者」で「生産量を増大する」ので、労働者雇用に様々な影響を及ぼす。

(A)機械経営部門に生産手段を供給する部門の生産・雇用は増大するが、それは「総資本に対する可変資本比率」に規定される。機械生産者という「新しい労働者種類」が生まれるが、彼らもまた機械導入・機械経営で駆逐される。原料生産では、(ア)綿紡績業では、アメリカでの「綿花・奴隷制」という膨大な雇用増加として表れたが、(イ)機械羊毛業では、農地の牧羊牧場化によりアイルランド人口の半減、雇用の極端な減少として表れた。

(B)完成品の「中間工程」への機械導入で、「生産手段が低廉」になり「その後の工程」の雇用・利潤を増大する。機械紡績が撚糸を低廉・豊富にし、それを原料とする「手織工」の雇用が増大したが、三紡績機の導入で解雇された。しかし、それがまた後工程の裁縫工らを増加させたが、それも結局、ミシンが没落させる。

(C)「機械経営」(以前より比較的「少ない労働者数」で生産)での「原料等の生産量の増加」が、その加工部門・「社会的分業の多様化」を促進する。

(例①:奢侈品)機械の直接の成果は、「剰余価値が表示する(利潤で買われる)使用価値量の増加」、つまり資本家層・奢侈品の増大である。第一次的生活手段生産に必要な労働者の「不断の相対的減少」は、奢侈の「新たな欲望とその充足手段」を産む。それは大工業が生み出す「世界市場」からも生じ、外国産の享楽手段・生産手段が国内市場に流入、運輸業の労働需要が増加し多数の亜種に分かたれる。

(例②:生産手段生産部類)運河・船渠・トンネル・橋梁のような「生産物が遠い将来にしか実を結ばない産業部門」、の労働を拡大する。全く新たな生産部門と労働分野が形成される。

(例③:不生産的労働)外延的・内包的に高められた労働力搾取で、労働者階級のより大きな部分が「不生産的労働者」となり、僕婢階級が大量に再生産される。1861年のイングランド・ウェールズでは、「実質的生産人口」800万人のうち120万人(15%)という大きな部分が僕婢階級である。資本主義的な機械利用の「素晴らしい成果」である。